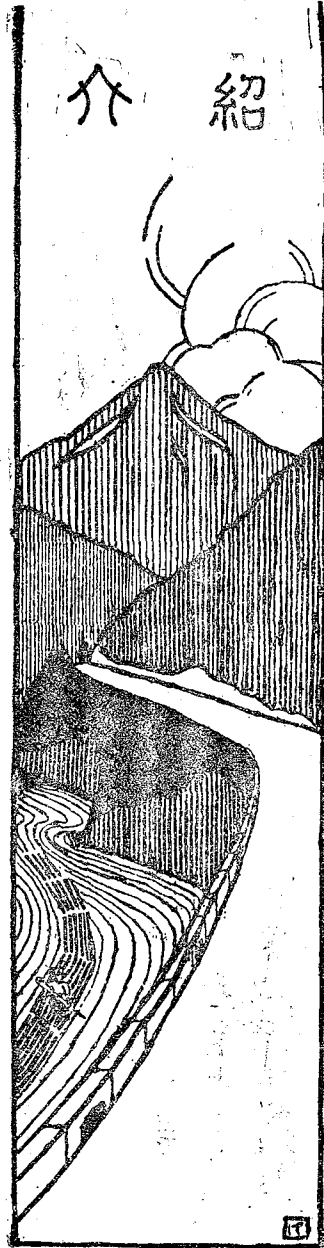


紹 介



## ◎新装成れる廣島市の東西兩橋

小 坂 登

「水の都」とは廣島市の異名である、夏の夕、涼を趁ふて町に散策するものは、至る所清流を湛へた川邊に往き當り舞ひ戻り、又しても同じ様な橋の上に出て、つい一時間や二時間は橋の欄干に夏の炎熱を忘れて過ごすであらう、それ程廣島には川が多い、太田川は七派に分れて廣島市に入り、其の東端を縦走して居るのが猿猴川で順次京橋、元安

本川、天満、川添の五川を経て西端郡市の境を爲すものが已斐川である、市を貫通して居る二號國道は之等一川に一橋を有しすべて七橋を算へ七川に懸る市内の橋梁總數は實に二十五に上る、奇巖白砂の間に青松生ひ茂る大島小嶼の起伏點在する絶勝瀬戸内海の一部を前庭とし鯉域の天守高く聳えて塵も立たず、砂粒をも數ふべき清流にかゝる二十

五橋は宛然水郷の廻廊にも譬へようか、この内國道筋の猿猴、已斐東西兩川に懸れる猿猴橋及已斐橋の兩橋の架換工事が共に去る三月竣功を遂げ、猿猴橋は同月十六日已斐橋は同月二十八日開通式を舉行せられた、兩橋は廣島市の東西兩關門たるの要衝に當り、極めて重要な設備であるが、茲に從來の頽齡貧弱なる木橋に代はるに現代的壯麗堅固な新橋が裝を凝らして出現したので、地元町民は元より市民一般の喜びは譬ふるに物なく、當日式典終了後は例に依つて盛大な祝賀會を催し諸種の餘興と近郷近在よりの參觀人とで、桃花三月の廣島市は、春の日短しと終日時ならぬ歡樂の街と化したるの感があつた。

橋梁の構造構裝は必ずしも壯絶新奇なりと云へないかも知れぬけれども、全く從來の面目を一新し、能く現時廣島市の交通狀勢に適し、市東西の兩玄關を飾るに十分であり、新廣島勇進發展の先驅たるの姿容亦備はれりと云ふを憚らない、唯吾人は先年元安橋が改築せられた際にも、其構造外觀等に相當工夫の凝らされたらしく思はれるに拘らず歩

車道の區別もなく幅員の甚だ狭少なのに市將來の發展の爲當局先見の明ありやを疑ひ、甚だしく失望したのであるが、今亦既に都市計畫事業の漸次實行の域に進まむとする今日、如何したことであらうかと再び同じ失望を感じたのである、或は何か期せらるゝところがあるのかも知れぬけれども幅員の狭少なるは全く玉に瑕の感なきを得ない。

極樂島を放ち不老樹でも植ゑれば筆の上では仙境の様な美しい水の都も元より大廈と矮屋相櫛比して普通の人間十九萬を以て充たされ、街路も電車通りを除いては未だ六間以上の通りは始どない様な小都市である、由來天災地變少なく山紫水明に、殊に水産農産豊かに惠まれた市民は、永年の靜平に慣れ一局地に執着し一握の財寶、曉梁の末業に甘んじて回天の雄圖を爲すの氣力に乏しい、(橋幅の狭いことは將來街路の幅員を動かさないことの證左であるまいかこれも、こんな因襲的習性の結果ではないか聊か心細いのである)従つて大商業地にもあらず大工業地にもあらざる廣島市が、頓に膨脹發展することは元よりあらう筈がないけ

れども、都市集中の傾向は獨り本市を列外たらしむる筈なく人口は年々増加し交通亦自ら繁劇を加へ、道路の擴張路面の舗装の必要を一般に感じて來るのは自然の數である、

市民の自覺はやがて當局の發動となり、狭いながらも國道筋は漸次アスファルト舗装が施され橋梁の架換も逐年實現するに至つたのである。既に竣成した工事に付ての小言はもう止すことにしよう、社會の狀勢は最早十年の昔とは變つて來た、市民も當局も今は都市計畫事業に力瘤を入れる程に自覺して來たのである、富山市でさへ既に十二間道路の工事を施行し新潟市に於ても十五年度から長百五十二間の萬代橋を幅員十二間のものに架換の計畫である、中國の大都市が幹線道路の橋梁の幅員を四間や五間に留める様なケチな工事は將來は再びしないであらう、街路擴張に必要な土地買収に高値を吹きかけて當局を困らす様な者のないのは勿論、中には進んで工費や土地の寄附を申出る様な奇特な人の出來るであらうことを信じる、しかし經費多端な折柄市に於てもかく多數の橋梁を今日の狀態に於て維持す

ることは中々容易なことではあるまい、緊縮節約の主義方針の下に尙且道路橋梁の改良に努めらるゝ、縣當局の勞も亦多とすべきである。

何は兎もあれ、近く京橋も架換工事實施せられるとか、斯くして廣島——水の都——は年一年と美觀を添へ利便を増し、聽て大廣島は生れ出づるであらう、希くは其形式と共に實質的にも愈充實し、彈力ある都市として益發展せむことを、兩橋竣功に際し其の將來を祝福して、左に兩橋改築工事の概況を紹介することとする。

## 猿 橋

一 概況 本橋は國道一號線猿猴川に懸り、往時廣島城下に入るの關門たりし箇所であつて、僅に數町の間に山陽本線廣島停車場を控へ、市の東玄關口と謂ふべき地位にある、而も東部隣接町村の物資は殆んど此所を通過して市氏に供給せられて居るので、交通は極めて頻繁である然るに舊橋は明治十九年三月地元町に於て架設し、爾

來幾多の修繕を加へて今日に至つたもので、橋長三十四間六分幅員四間の表立關に位する本橋も既に橋體老齡腐朽甚しく、交通繁劇且つ重量交連運輸機關の激増せる現時に於ては、到底其効用を全うすること能はざるのみならず色相共に褪せ荒み、文運の進展に伴はざるの憾みがあるもので、之れが改築を企圖し大正十四年六月工を起し去る三月七日竣功を遂げたのである。

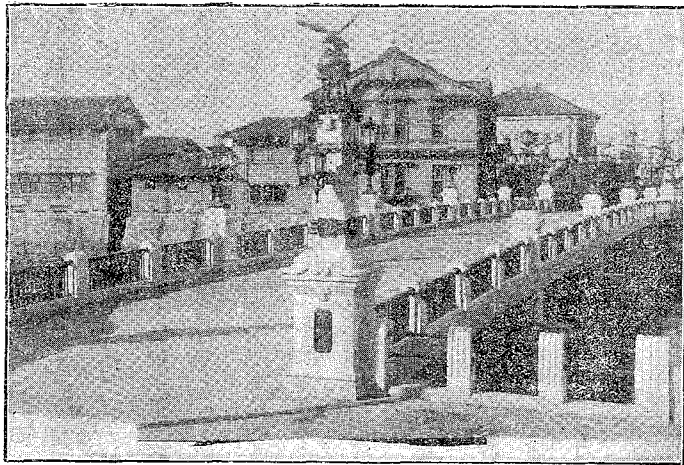
### 二 設計の概要

本橋の架橋位置は、既設道路の關係上舊橋の位置を撰んだものであつて、橋型は鐵筋混凝土連續桁とし、徑間四十四尺五寸橋脚五連を選び、橋脚の方向は河川の流心に平行する様設計せられて居る、架設地點が太田川の支流猿猴川の中流に位して、洪水時に於ても流速比較的緩かで水量も亦著しく大でないから、斯く小徑間とするも治水上に特に悪影響を及ぼすの虞はないのである。

### 三 橋脚

土質は地盤以下約十尺は大小粒混合の砂層を成し、以下三尺は虹鱈殻交りの粘土層であつて處々に點

石等もあり、尙其れ以下は堅質の粘土層である、故に地盤以下の

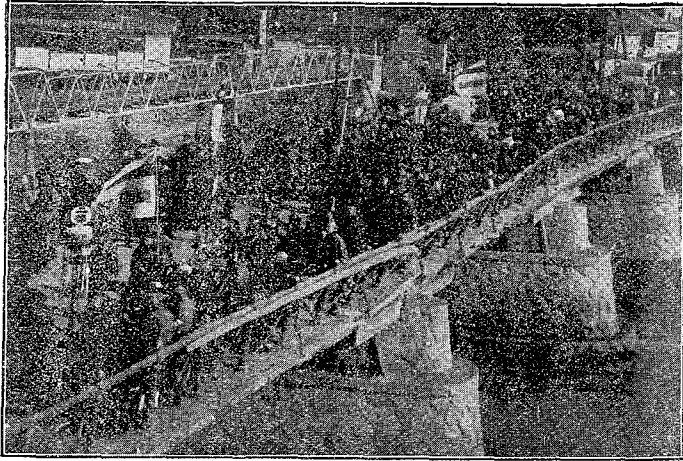


改築猿猴橋

深さに就ては既設構造物根入れを慎重に調査の結果之を二十二尺とし、基礎は内徑七尺高六尺の鐵筋混凝土製井筒を三箇繼ぎ

之を三列とし、軀體は混凝土を填充して井筒となし最下

部には履鐵を用ひてある、同井筒は天端より鐵筋混凝土



改築前の猿猴橋

地層は橋脚底と同様であつて、左岸は河床下九尺を床掘

紹介

壁を以て築造し、兩端は水切れを容易ならしめむが爲に半圓形と爲し、之に石張工を施して外觀の美を保持せしめてある。

#### 四 橋臺

して地杭五十二本を打込み厚一尺の割栗石を填充して、基礎は混凝土工を施行し、其の上部は橋脚同様表面石張の混凝土であつて、高二十一尺六寸五分に幅三十五尺五寸に築造し、右岸橋臺も左岸橋臺と同様の構造であるけれども、地形の關係上高さを十九尺六寸五分としてある。

#### 五 橋體

鐵筋混凝土五徑間、一徑間四十尺五寸、三徑

間及二徑間の連續桁であつて、桁幅一尺三寸三分高さは桁端に於て三尺中央に於て二尺一寸六分と爲し、床版は厚六寸其の上面は混凝土を以て六十分一勾配と爲し、橋面には上下層を合せて二吋半のアスファルトコンクリートの舗装を施こしてある。

#### 六 高欄

高欄工中親柱、中柱、束柱、地覆石等は、す

べて餘勇國産花崗石の水磨きであつて、嵌板照明燈竝親柱裝飾金具は全部青銅製とし、嵌板は橋名に因んで猿猴の模様を採り、親柱上部には吉祥を意味して二様の鷹を配置してある、其の他大體の様式は「セセツション」式を採用して居るのですべてが其の意味に依つて設計され

て居る。

本橋に要した工事は總額金拾萬六千參百拾八圓七拾四錢であつて、之を大別すれば左の通りである。

金貳萬參千六百五十五圓九拾七錢 下部構造  
金六萬九千四拾八圓拾五錢 上部構造

金八千六百拾圓 假橋費

金五千四拾四圓六拾貳錢 雜費

以上

知事式辭

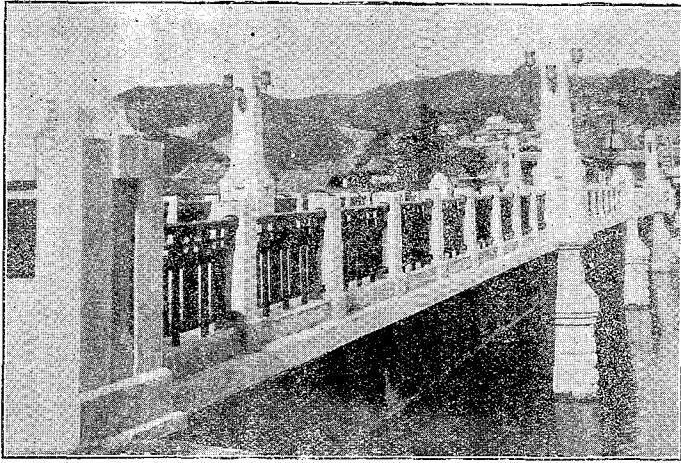
今回猿猴橋の改築工事は完成シマシテ本日茲ニ竣工ノ式典ヲ舉行スルコトナリマシタコトハ寔ニ欣幸トスル所デアリマス抑々本橋ハ國道貳號線ニ架設セラレ廣島市内ノ要衝ヲ連絡スル重要ナル設備デアリニ不拘久敷間舊態依然トシテ社會進展ノ實狀ニ副ハナカツタノデアリマス特ニ近時廣島市勢ノ發展ニ伴ヒテ市内ノ交通ハ益々繁盛ヲ加フルノ時ニ於テ從來ノ木橋テハ幅員狹ク且ツ耐力薄弱テ其ノ效用ヲ完フスルニ不充分デアツタノデアリマス依テ本縣ハ曩ニ之レガ改築ノ計畫ヲ樹テマシテ十萬餘圓ノ豫算ヲ以テ昨年六月工事に着手シ爾來銳意工程ノ進捗ヲ圖リ茲ニ滞リナク完成ヲ遂クルニ至ツタノデアリマス構造ハ必ズシモ宏壯ナリトハ申サレマセメケレ共永久のニ堅牢ナラシムルガ爲メ橋脚及橋體ハ鐵筋

コンクリート工ト爲シ加フルニ都市將來ノ文化ヲ豫想シマシテ上部構造ニハ一層意ヲ用ヒ體様ヲ整備シ以テ市裝飾ノ一タラムコトヲ期シタノデアリマス惟フニ本橋ノ竣工シマシタコトハ廣島市内一部ノ交通ヲ永久ニ安泰ナラシムルノミナラズ猿猴川ノ清流ト共ニ市内ノ風致ニ一段ノ美觀ヲ加ヘ市勢ノ發展ニ寄與スル所尠カラザルモノト情シマス庶幾クハ本橋ノ利用ニ依リ今後一層文化ノ進展及福利ノ増進ヲ計ララムコトヲ希望シテ已マナイノデアリマス  
大正十五年三月十六日  
廣島縣知事濱田恒之助

已斐橋

本橋は太田川の支流已斐川に懸り、之を隔て、直に隣郡已斐町に接する、猿猴橋と相對して廣島市西部各町村との唯一の交通路であつて、已斐停車場に近く、正しく市の西立關口である、舊橋は明治三十七年七月架け換へられた木橋であつて二十餘年を経過し、其の間桁及橋板の取替へ又は橋面の鋪裝等幾多の修繕を加へて辛ソじて保持せられて居たのであるが、橋脚橋體共腐朽甚しく姑息なる修繕を以てしては到底現時の交通情勢に適應し得ないばかりでなく、危險状態に瀕するに至つたので、遂に改築の計畫を樹

て去歲三月工事に着手し今回竣功を見るに至つたのである



改築されたる已斐橋

の鐵筋混凝土幕壁を築造して橋脚とし、橋體は可成法定の

紹介

本橋の構造は外徑六尺厚五寸長九尺の鐵筋混凝土製井筒二箇を

地盤下十尺の深さに埋めて基礎と爲し、之れに厚二尺五寸高十

荷重に適合せしめ構造を堅牢ならしむる爲に、桁は鋼鐵桁

を選び、其の上部に厚六寸の鐵筋混凝土床版を築造して橋面を造成してある、橋長二百四十三尺、一徑間六十六尺六寸の四徑間と爲し、全幅員は二十六尺、總面積百七十五坪六合を算する、橋面の縱斷勾配は九十分一横斷勾配六十分一であつて、全面を「アスファルト」を以て鋪裝し交通の便と排水の圓滑とに供へてある。

本橋改築に要した工事費は、下部構造費一萬二百八十四圓七十六錢、上部構造費三萬二千八百二十一圓五十九錢、合計四萬三千百六圓三十五錢である。

知事式辭

已斐橋ノ改築工事完成ヲ告ゲ茲ニ竣功式ヲ舉ゲルハ余ノ最モ欣快トスル所デアリマス

抑モ二號國道ハ廣島市チ東西ニ貫通スル重要幹線デアツテ而モ本市ト西部方面ノ町村トヲ連結スル唯一ノ路線デアリマス從ツテ本市ガ西部ニ向ツテ吞吐スル人馬物資ハ悉ク本路線ヲ交通シ其ノ量極メテ大ナルニ不拘從來ノ已斐橋ハ構造脆弱ナル木橋テ而モ腐朽甚シク危險ヲ感ズルコト夥シカツタノデアリマス茲ニ於テ改築ヲ行フコトニナリ昨十四年三月起工シタリテアリマス爾來周到ナ

ル監督ト請負者ノ情勵トニ依リ茲ニ豫定ノ如ク質實堅牢ナル本橋ノ竣功ヲ見ルニ至ツタコトハ關係地方人士ト共ニ深ク欣ビトスル所デアリマス惟フニ交通機關ノ完備ハ都市ノ繁榮ニ伴フ必然ノ要求デアツテ就中、道路橋梁ノ改良ハ一日モ速ニ之ヲ完成シテ期セザルベカラサルコトト信シマス本市ニ於ケル國道筋ニ就テ數年來「アスファルト」鋪裝工事ヲ進メテ路面ノ改良ヲ圖リ大正十五年度ニ於テハ殆ンド全線ヲ完了スルノ豫定デアリマス其橋梁ニ付テモ纒ニハ本縣ノ表支關口タル猿渡橋ノ改築ヲ終リ更ニ明年度ニ於テハ京橋ヲ架換スル豫定デアリマスカラ市内ノ國道ハ其ノ路幅ニ於テ遺憾ノ點アルモ構造トシテハ面目チ一新シタノデアリマス當局ハ更ニ地方人士ノ協賛ニ依リ幅員ノ擴張路線ノ整理等都市街路ノ完成ヲ期シタイト存シマス庶幾ハ本日ノ祝賀ニ満足スルコトナク愈々其ノ完備ヲ促進スヘク協力セラレムコトヲ望ミマス聊カ所感ヲ述ヘテ式辭ト致シス

大正十五年三月廿八日

廣島縣知事 濱田恒之助

◎水野氏の政友會入黨

會長水野鍊太郎氏、政友會に入黨さる、政治家が政黨に籍を置くのは當然過ぎる程當然であつて、今更彼は言ふに及ばない、寧ろ今までに入黨されなかつたのを怪む位である。

世の人は水野氏の政友會入黨に依つて、本會が政友化せられ又は政友色彩を帯ぶるに至つたことを懸念するかも知れないが、本會の目的が道路の改良に在つて、既に政黨政派を超越して居るばかりでなく、會が社團法人である、ことからして、業務の執行は民法の定むる所に依り、理事の過半数に依つて決し會長の專行を許さない、加之顧問には政治圈外に卓越して居る澁澤子爵が在るばかりでなく、本黨總裁の床次氏も居る、會務を議決すべき評議員には憲政會と言はず、本黨政友會と各種の政治家を網羅して居るから、政治的色彩眼鏡を以て本會を羈るのは大なる誤である。

敢て世の誤解者に告ぐ。